

# 地域農業戦略指針

～ 地域農業の持続・発展と活力ある農村を目指して～



平成27年(2015年)3月

滋賀県農政水産部

(表紙裏)

## 策定にあたって

田んぼや畑のことが日常のあいさつや会話の中心であり、祭りや五穀豊穰を願う行事は住民総出が普通のことであった農村の姿は、消えつつあります。

農業を取り巻く情勢が大きく変化する中、農業従事者の高齢化が進み、多くの地域で農家数が減少しています。

とりわけ、水田率が92パーセントと高く、主業農家率が6パーセントと低い本県では、このままで農業経営が続けられるのか、集落の農地が守れるのか、集落のコミュニティは維持できるのか、誰もが心配されているところです。

このような不安を解消し、明るい展望を見いだすには、何よりもまず、そこに住む人々が、自ら地域の農業、集落の将来を考えることが大切です。

今、求められるのは、集落の将来のために、集落の住民みんなが話し合い、目指す農業、農村の姿をみんなで描き、その実現に向けて取り組んでいくことです。

「誰がどのように農業を担い、集落の農地を守るのか。」「活力のある農村をどう創るのか。」「集落や住民ができること、すべきことは何なのか？」

本指針は、集落の話し合いに基づいて、担い手をはじめ、集落の農業者と住民が互いに支え合い、地域農業の持続・発展と農による地域再生を目指す活動を実践されることを願い策定しました。

指針では、農業、集落の将来を考える時に、目指す方向の参考となる効率的な水田経営のパターンや、農業や地域資源を活用した地域活性化の事例などを示しました。

また、将来を考えるにあたって、市町、農協などの関係者や集落リーダー、農業の担い手が、地域や集落の農業の現状と課題を認識し、集落で話し合いを進める際の資料や手法を示しています。

本県には、1980年代から全国に先駆けて取り組んできたブロックローテーションによる集団転作や1990年代に広がった全国有数の集落営農の取組、さらには近年の「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」の取組など、集落を基礎として農業を行い、農地を守ってきた力と実績があります。

その力を今一度結集し、集落の課題をしっかりと把み、集落の実情にあった将来の農業、農村のあるべき方向性を定め、集落住民共通認識のもと、その実現に努めていただきたいと思います。

平成27年(2015年)3月

滋賀県農政水産部長

青木 洋

# 目 次

## 策定にあたって

<b>第1章 地域農業戦略指針で目指す農業・農村の方向</b>	1
1 滋賀県の農業・農村の現状	1
2 県が目指す農業・農村の将来の姿	3
3 目指す姿に向けて	5
4 目指す姿の具体例	9
<b>第2章 集落での実践</b>	15
1 実践までの流れ	15
2 現状把握・課題整理	16
3 目指す姿を描く	21
4 集落での合意形成	24
【参考】集落リーダーの役割	26
<b>第3章 実践のための手引き</b>	28
I 集落の農業の持続・発展に向けて	28
1 集落に支えられた個別経営の展開	29
(1) 農地の面的集積	29
(2) 集落と個別経営が支え合う環境づくり	34
2 集落営農組織の発展	37
(1) 集落営農組織の法人化	37
(2) 集落営農組織の複合化・6次産業化	42
【参考】近隣集落との連携	47
(3) 水稻部門の協業化	49
(4) 新たに集落営農を始める	52
(5) 集落営農組織Q&A（組織の継続性を高めるために）	55
Q1 組合批判、運営不満の声が出てきた。	55
Q2 同じトラブルや問題が繰り返し発生する。	57
Q3 役員のなり手が少ない。役員改選が円滑に進まない。	58
Q4 組合員の参画意識が低い。	59
Q5 若者がなかなか参画してくれない。	60
Q6 オペレーターの作業にばらつきがある。	61
【最新の技術】映像を活用した農作業ノウハウの伝承	62
Q7 米価の下落に対してどのように対応すべきか。	63
3 集落営農組織と個別経営の連携強化	65
(1) 集落営農組織と個別経営の農地利用調整	65
(2) 集落営農組織と個別経営の補完関係	69
4 集落外部に基幹作業を委託し集落農業を継続	71
(1) 広域での農作業受委託等の仕組みづくり	72
(2) 集落でまとめて外部の担い手へ農作業委託	74
【参考】集落で農地をまとめて外部の担い手へ貸付ける場合	76
II 活力ある農村に向けて	78
1 農業組合などの組織の継続・強化	79
2 集落による農地の利用調整	81

3 地域住民の参加による水路や農道を維持管理する共同活動	・・・ 83
【参考】集落ぐるみの獣害対策の実施	・・・ 90
4 農業を通じた地域住民の交流	・・・ 93
5 地域資源を活用した農村の活性化	・・・ 98
(1) 地域特産物の生産	・・・ 101
(2) 都市農村交流	・・・ 102

### 【優良事例】

○個別経営ごとに完全な農地の面的集積を実現～彦根市新海町～	・・・ 33
○園芸作物導入と年代別作業グループ制による集落営農法人 ～甲賀市水口町酒人（農）酒人ファーム～	・・・ 46
○若者の参画に工夫をこらし次代を見据えた集落営農法人 ～東近江市横山町（農）ぐっど・は一べすと～	・・・ 64
○個別経営と集落営農組織間で農地利用調整を円滑に実施 ～豊郷町吉田～	・・・ 68
○土地持ち非農家ばかりの集落で共同活動～長浜市A町～	・・・ 88
○広域的な「世代をつなぐ農村まると保全向上対策」の取組 ～高島市水土里を守る会新旭地区～	・・・ 89
○集落みんなによる活気に満ちたむらづくり～近江八幡市白玉町～	・・・ 96
○農業と住民の共生による住みよい農村づくり～愛荘町杓掛～	・・・ 97
○集落の特産品「もち」を核とした6次産業化による活性化 ～甲賀市甲賀町小佐治～	・・・ 104
○中山間の条件不利地において、大学と連携して地域の活性化 ～大津市八屋戸 北船路～	・・・ 105
○地域の生き物を育み、都市農村交流を通して地域の活性化 ～野洲市須原～	・・・ 106
○4集落が協力して地域資源を活用した活性化～長浜市杉野地域～	・・・ 107

### 資料編

資料編	・・・ 108
1 滋賀県農業・農村の現状と課題	・・・ 109
(1) 稲作経営の悪化	・・・ 109
(2) 農村の集落機能の低下	・・・ 113
2 活用できる様式など	・・・ 115
(1) 集落の農家の5年後、10年後の見通し整理シート	・・・ 115
(2) 集落の活力チェックシート	・・・ 117
(3) 集落営農組織点検シート	・・・ 119
(4) アンケート例	・・・ 120

---

### 関係機関・団体向け

関係機関・団体向け	・・・ 124
1 関係者による戦略立案	・・・ 125
(1) 関係者の共通認識と方向付け	・・・ 125
(2) 集落リーダーの育成	・・・ 130
【参考】集落が動く3つのポイント	・・・ 132
(3) 集落の現状と課題の分析	・・・ 134
2 推進方策	・・・ 140

## 《第1章》

# 地域農業戦略指針で目指す農業・農村の方向



## 1 滋賀県の農業・農村の現状

水田農業の収益性が大きく低下していることなどから、本県の農業・農村は、水田農業の存続に関わる、大きな転換期を迎えています。

### (1) 稲作経営の悪化

○米価の低迷が続き、収益が低下

- ☞ 平成26年産の米価は、コシヒカリで2,500円/60kgの値下がり。  
今後も全国的なコメ余り、価格低迷は続くと予想されている。

○国の農業政策に農業者の不安の声

- ☞ 平成30年産からの米の直接支払交付金の廃止、生産調整の見直し（行政による主食用米生産数量目標配分の廃止）、TPP交渉等、水田農業経営の先行きが見えにくく、農業者からは生産意欲の減退を訴える声も。

○大規模経営農家の規模拡大に限界

- ☞ 農地の分散による作業効率の低下や、水路・農道等の管理などの労力の負担増が規模拡大の障壁。

○集落営農組織の停滞

- ☞ 構成員の参画意識が希薄化し、役員やオペレーターのなり手が不足。

### (2) 農村の集落機能の低下

○農家数の減少、農業従事者の高齢化

- ☞ 本県の農業就業人口の平均年齢は68.4歳（全国平均65.8歳 2010年）。

○農業への関心の薄れ

- ☞ 土地持ち非農家が販売農家数を上回り、また、混住化の進行などにより、水路や農道を維持管理する共同活動や、集落行事への参加率が低下。

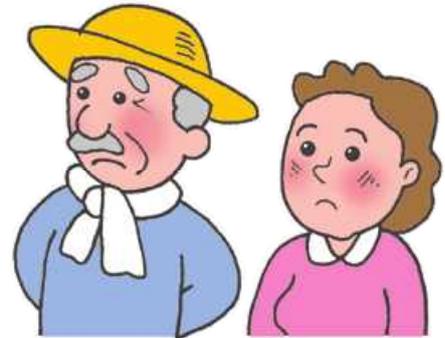
### (3) 農業・農村の弱体化

○ (1) (2) の状況が進めば、農業・農村の維持は困難に

- ☞ 農業の担い手がいなくなる
- ☞ 集落営農組織が弱体化
- ☞ 小規模農家のリタイア、農業離れ
- ☞ 住民相互のつながりの希薄化による集落の機能の弱体化

○ 今、対策を講じなければ、さらに……

- ☞ 荒廃農地の発生、拡大
- ☞ 共同活動の崩壊
- ☞ 美しい田園風景の喪失、伝統ある農村文化の衰退を招く懸念



### (4) 対策に向けて

○ 課題は「協働、相互扶助」

これらの懸念が現実とならないように、地域、集落の実情に応じた対策の話合いに、早急に取り組む必要があります。

農業の持続、集落機能の維持、発展に向けて、農村においても近年途絶えがちになっている、相互扶助の精神なしにはどんな取組も継続できません。話合いの中心は協働活動、相互扶助です。

例えば、担い手の規模拡大にあたって、最も課題となるのが作業効率と労力の確保です。効率の良い形状の田を集約することが、機械効率、労働生産性を高めます。草刈り、水路や農道の管理作業の労力負担が大きく、規模拡大が困難となっている事例が多くあります。

今後は、水路や農道をどう管理していくかが、農業の持続、集落機能の維持に大きく関わります。水田や水路、農道は農業生産だけでなく、防火や洪水対策の大きな役割も有しています。

また、集落営農も地域活性の取組も一人でできるものではありません。特産物を栽培する、直売所に並べる、加工品を開発する、交流活動をする…多くの人の協働によって成果が生まれます。

次の代、その次の代に美しい田園風景や心豊かな生活を引き継ぐために、健全な水田農業のあり方、活力ある農村生活の姿について、集落全体で話合いを進めましょう。

## 2 県が目指す農業・農村の将来の姿

「担い手、小規模農家、土地持ち非農家、地域住民がともに支え合い、集落の農地がしっかりと守られ、人々がいきいきと生活している」姿を目指します。

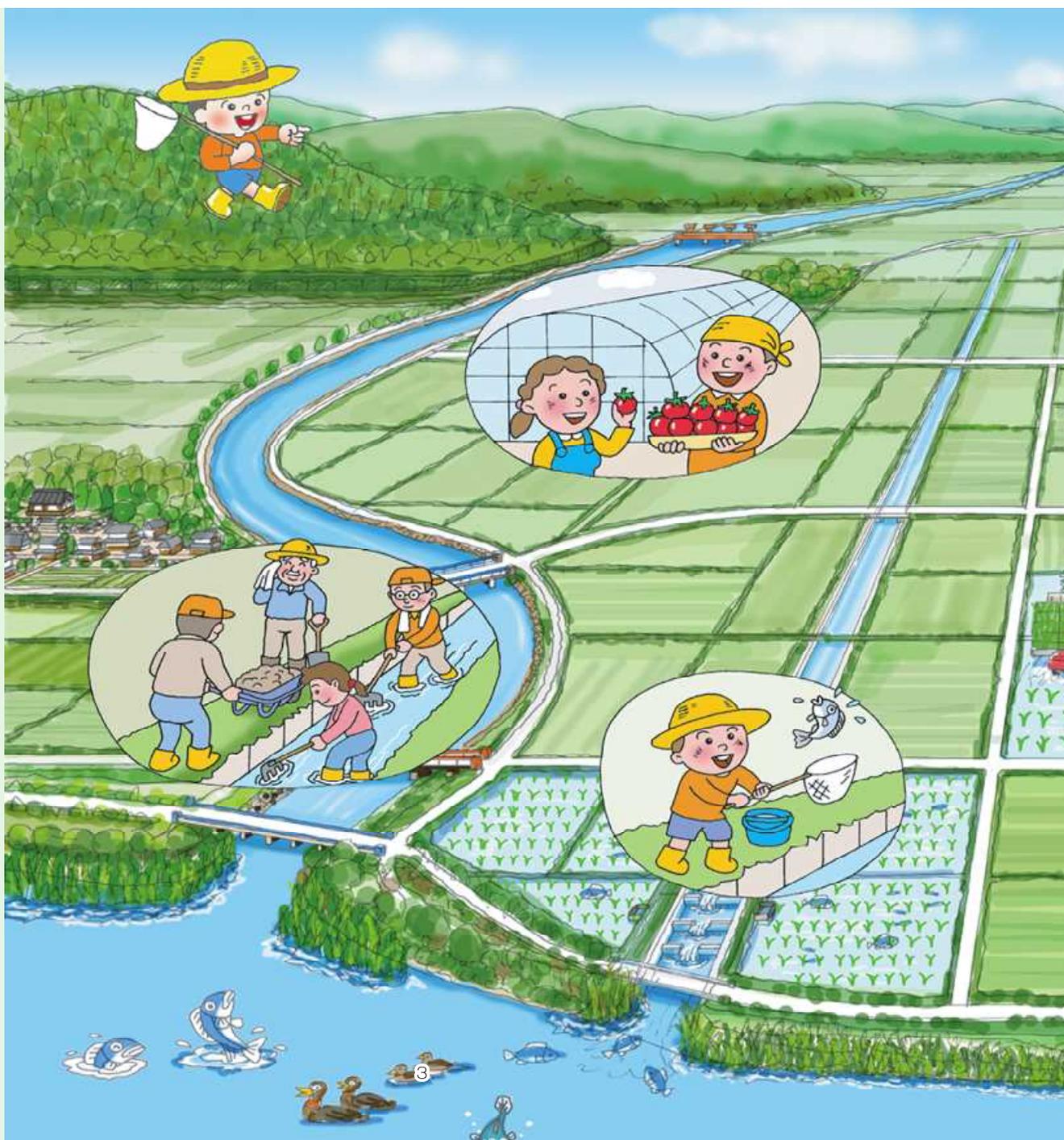
### (農業の持続・発展)

○担い手が、集落との結びつきを強め、力強い農業経営を展開し、集落の農地が守られています。

### (活力ある農村)

○地域住民が一体となった水路や農道等の管理作業が行われ、多くの人が集落行事に参加し、人々が活気に満ちています。

農村の地域資源を活用した特産物の生産や6次産業化の取組、都市部との交流活動で、集落がにぎわいを見せています。



## 農業の持続・発展、活力ある農村に向けた関係づくり

### ○担い手(個別経営、集落営農組織<sup>※</sup>)の役割

- ・健全な農業経営の展開により集落農地の保全、雇用機会の提供に貢献
- ・特産物の栽培をけん引

### ○土地持ち非農家、地域住民の役割

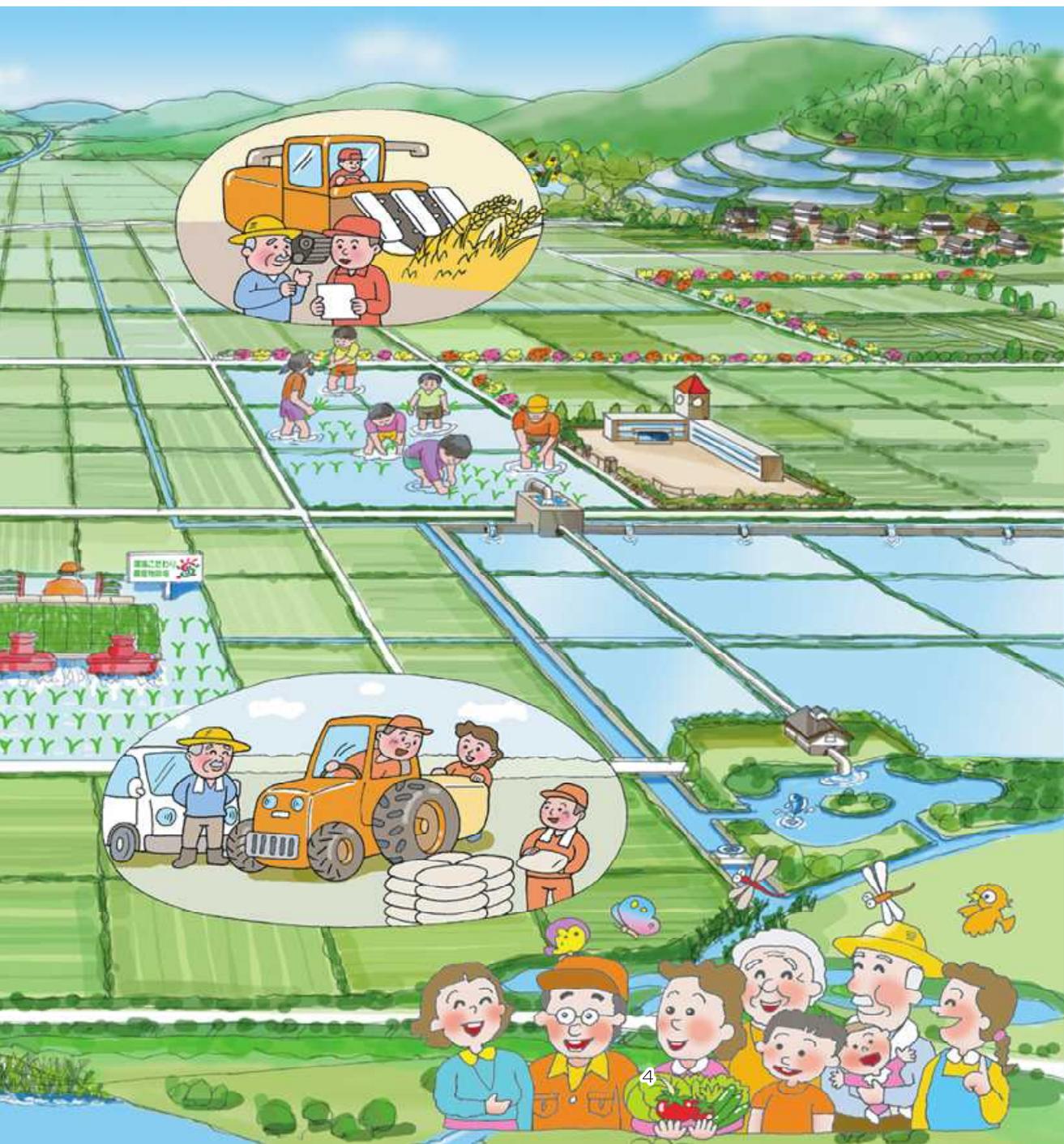
- ・水路、農道管理に参加し担い手の経営を側面的に支援
- ・集落活性化の取組に参加

### ○集落の役割

- ・人材や資源を活用し、活力ある農村に向けた取組の推進

協働  
相互扶助

※個別経営：規模拡大など経営発展に意欲的な農業者で法人を含む  
集落営農組織：集落の農家で構成し生産から販売まで一体的に行う組織



## 3 目指す姿に向けて

集落が、農業・農村の将来の姿を描き、その実現に向け、何をすればよいのか、集落の農業の持続・発展と活力ある農村の2つの視点から取り組む方向性を示します。取組にあたっては、これまで、農村集落が培ってきた協働、相互扶助の精神を生かして農業の持続と集落の活性化を一体的に進めます。

### (1) 農業の持続・発展に向けた集落の取組

将来にわたって美しい田園風景を保つためには、集落の農地を耕作する担い手が安定した経営を継続できる環境を整えることが必要であり、経営の安定のためには、生産コストの低減、作業の効率化、収益増加が求められます。

担い手自身の経営努力は当然ですが、限られた経営資源の中で生産効率を向上させるのには限界があります。米価が低迷する中、これからの地域農業の担い手の確保と経営安定には集落の協力が不可欠です。

そのためには集落と担い手が意思疎通を図り、相互に協力することが重要です。地域住民は「担い手が田んぼを耕作してくれるから、集落の美田や環境が守れる」、担い手は「大切な農地を預かって経営をしている」という意識を持たねばなりません。

持続的な農業を営む姿として、本県水田農業の担い手の実情を踏まえ、4つの水田経営のパターン(目指す姿)と実践に向けて必要な取組を示します。

#### ① 集落に支えられた個別経営の展開(個別経営への農地の集約)

⇒ 意欲ある個別経営が中心となって集落農地を管理している場合、それぞれ個別経営が経営を伸ばし集落農地を担う姿です。

○個別経営が安定した経営を継続できるよう、土地持ち非農家や集落が支える体制を築きます。

○個別経営が規模拡大するには、分散農地の集約化と水路の泥上げや農道の草刈りなどの維持管理作業の負担軽減を図る必要があります。

#### 【集落で必要な主な取組】

○集落は、個別経営の農地の面的集積が進むよう、地主と農地の利用調整を行います。

○地域住民が参加して、水路や農道等の維持管理を行う体制を作ります。

#### ② 集落営農組織の発展(集落営農組織の体制強化)

⇒ 集落営農組織が体制を強化し、収益を産み出す営農により集落農地を担う姿です。

○水稻、麦、大豆の協業化による効率化はもちろん、園芸品目の導入や農産物加工など多角化により常に「収益性」を意識した経営に取り組みます。

○まずは意識改革。集落営農の大半は「集落の農地を守る」目的で設立されており、構成員は兼業農家が多いことから、組織の運営は役員やオペレーターに任せがちで、面積拡大や多角化など新たな取組には消極的な傾向にあります。

○法人化により、守る農業から儲けを出す農業への転換を図ります。

○集落営農の強みである構成員の多様な人材の活用を図ります。

#### 【集落で必要な主な取組】

○若者や女性も含め集落営農への積極参画を進めます。

○集落リーダーや役員等の後継者育成に努めます。

○経営規模が小さい集落営農組織では、効率化や収益性にも限りがあるので、近隣の集落営農組織と連携した姿も視野に入れた検討も行います。

### ③ 集落営農組織と個別経営の連携強化

⇒ 意欲ある個別経営と集落営農組織が、それぞれの経営を伸ばしながら効率よく集落農地を担う姿です。

○互いの管理する農地を交換分合し、それぞれの管理作業を効率化するとともに、集落営農組織の豊富な人材、個別経営の技術や機動力を相互に補完する関係を築いて双方の経営の安定を図ります。

#### 【集落で必要な主な取組】

○集落営農組織と個別経営の農地の利用調整や相互の作業の受委託の調整を図るなど、競合を避け、効率的な経営を支援します。

○経営の安定には一定の面積が必要なので、農地面積が少ない集落では、個別経営は隣接集落などの農地も担う経営も必要となります。

### ④ 集落外部に基幹作業を委託し集落農業を継続

⇒ 集落内に担い手の見込みがなく、また、未整備や水田の区画が小さいなどの理由で農地を借りる受け手も見つからない場合において、水田基幹作業を集落外部の担い手（農業サービス事業体等）に委託し、日常管理を集落農家で行い、農業を継続する姿です。

○担い手不在のままでは耕作放棄地の増加や集落機能の低下の懸念があります。このため、機械経費や労力負担の大きい基幹作業を外部委託し、農家は日常管理を担い、生産される米は集落の米として確保することで農業との関わりを継続し、農地を維持します。

#### 【集落で必要な主な取組】

○この姿は、農地を守り続けることを主目的としますが、集落は、農繁期の作業に追われていた時間を活用して、共同で特産物を育てるなど、集落の活性化につながる新たな活動の取組に努めます。

- 集落は農業者の合意形成を図り、調整する役割を担います。委託先や内容を関係機関・団体と相談し、また、農地をまとめるなど外部の担い手が受託しやすい環境づくりを行います。
- 集落外に出ている集落出身者の協力を得て、農地保全や集落の活性化を図る仕組みなども考えます。

## (2) 活力ある農村に向けた集落の取組

集落には、行事の持ち方などについて、集落で話し合いを行い、取組の方向や内容を決め、実行する「集落の調整機能」が備わっています。自治会、農業組合、水利組合など、集落にはいくつかの組織がありますが、住民や構成員間の調整は、農業・農村を維持する上においても不可欠です。それぞれが集落の将来を思い、相互に連携し同じ方向で話し合いを進めます。

農業者の減少、従事者の高齢化、混住化、過疎化が進む中で、集落の活力を高めるには、集落ぐるみによる協働の取組が求められます。農業を核とした取組であっても、幅広く住民が携わることで大きな成果となることが考えられます。

また、活性化の取組は、将来の集落を担う若い年代が中心となることが大切であり、新たな発想も必要です。

集落の活力を高めるために重要な取組について示します。

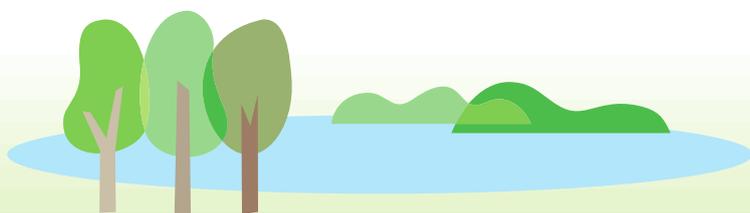
### ① 地域住民の参加による水路や農道を維持管理する共同活動

農業生産になくてはならない水路や農道は、防火用水や生活道路など公共的な役割も併せ持ちます。水路や農道をしっかりと管理することが農地や景観を保全し、住民の安心な生活を守ることに繋がると言えます。

このことから、農地はもちろん水路や農道も、将来に引き継ぐ大切な集落の資産であることを地域住民が理解し、住民一体となった保全の仕組みが重要です。

一方、担い手は、集落の大切な財産を預かっているという意識のもと、農地をしっかりと耕作するとともに、共同活動の先頭に立ち、水路や農道の維持管理への協力に応えることが求められます。

水路や水田における「生き物観察会」などは、住民と担い手が理解を深める有効な活動です。



## ② 農業を通じた地域住民の交流

集落では、様々な催事や行事を通じて住民相互の連帯感を育んでいます。

それぞれの農村には、伝統的な文化や行事が多く残されていますが、これらを持続可能な形で継承する活動や、「農業体験」や「朝市」など生産者と消費者が地域で交流できる場づくりが、活性化の機会となります。

## ③ 地域資源を活用した農村の活性化

地域資源を最大限に活用した、新たな生産・販売活動や交流活動により、にぎわいのある集落の構築を目指します。集落に活力を生み出していくためのチャレンジです。

自然や景観、農産物、伝統料理、催事、史跡など、改めて自分たちの集落を見直すと、新たな発見があるはずです。眠っていた資源の掘起こしができるかもしれません。

話し合いの中で、住民が共感できる魅力を探し出します。

## ④ 女性や若者、多様な人材の活用

集落には、様々な知恵や技をお持ちの高齢者から、人脈や情報量を多く持つ会社勤めなど働き盛りの人、生活者や消費者の目線でアイデア豊富な女性、新鮮な発想力と行動力にあふれる若者など、多様な人材がお住まいです。集落外にも活性化のヒントとなる、地域おこしをテーマに活動する大学生サークルや農産物マルシェなど交流イベントを企画・開催する団体なども多くあります。

こうした人々が話し合いに参画することで、夢のある将来の姿が描け、また、実践できます。特産物生産、直売や農産物加工、田植や収穫の機械オペレーター、交流活動など、集落の多様な人材を活用した取組を進めましょう。



## 4 目指す姿の具体例

「3 目指す姿に向けて」に示した取組方向を踏まえた、目指す姿の具体例を示します。

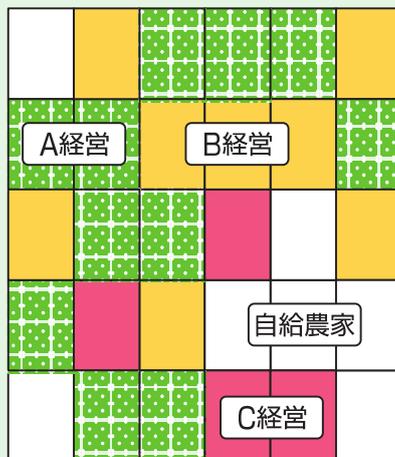
### (1) 農業の持続・発展に向けて

#### ① 個別経営への農地の集約

担い手が個別経営中心の集落の場合

#### ○農地の利用調整で農地を面的に集積

##### 現状のイメージ



##### 【解消すべき課題】

- ・ 農地の分散、水路等の管理の負担
- ・ 土地持ち非農家の農業離れ

##### 【改善のポイント】

- ・ 個別経営ごとに農地を面的に集積
- ・ 地域住民が水路・農道を管理



##### 目指す姿



##### 【期待される成果】

- ・ 効率的な作業で規模拡大、コストの低減
- ・ 集落農地が将来的に守られる

##### 【集落の取組】

- ・ 農地の利用調整
- ・ 水路・農道の共同管理体制の推進

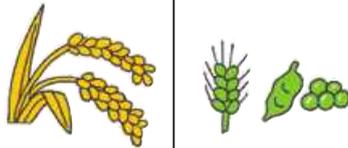
○若者や女性など多様な人材の活用で営農組織を活性化

現状のイメージ



集落営農組織

水稻、麦、大豆の生産  
または  
麦、大豆のみの生産



【解消すべき課題】

- ・ 役員の高齢化、固定化後継者不足
- ・ 設立当時の目的意識の希薄化
- ・ 経営意欲の不足

【改善のポイント】

- ・ 円滑な世代交代の仕組みづくり
- ・ 法人化による経営意識の向上
- ・ 若者、女性の参画
- ・ 戦略的な作物選択
- ・ 複合化、6次産業化による新たな取組



目指す姿



集落農地の全面経営

水稻、麦、大豆に加えて  
戦略的な作物(特産品)の導入



園芸品目  
そばなど新たな生産



加工・直売など  
新たな取組み

【期待される成果】

- ・ 収益性の向上
- ・ 組織の活性化
- ・ 集落農地が将来的に守られる

【集落の取組】

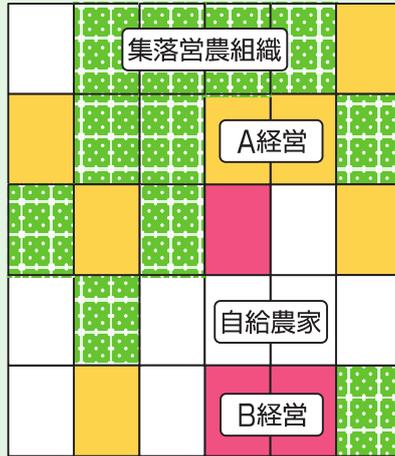
- ・ 水稻協業の推進
- ・ 若者、女性などの人材活用
- ・ 新たな取組への積極支援

### ③ 集落営農組織と個別経営の連携強化

集落営農組織と個別経営が共存する場合

#### ○ 農地集約化と機械作業の相互補完で双方が効率化

##### 現状のイメージ



##### 【解消すべき課題】

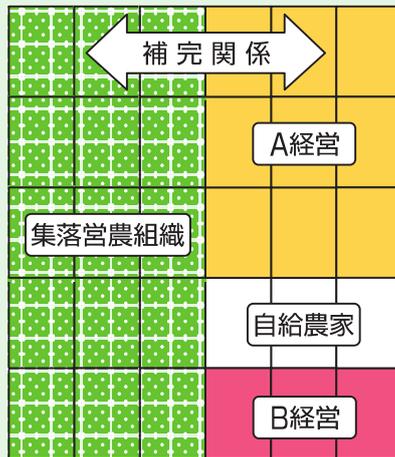
- ・ 集落営農組織と個別経営の農地が混在
- ・ 麦や大豆の作付の調整が不十分で非効率
- ・ 水路や農道の管理作業の調整が不十分で非効率

##### 【改善のポイント】

- ・ 集落営農組織と個別経営の農地を交換分合しすみ分け
- ・ 相互が作業受委託、期間借地で経営を補完



##### 目指す姿



##### 【期待される成果】

- ・ 作業効率の向上
- ・ 作業受委託で機械費、労働費が低減
- ・ 相互補完で効率化された労力を新たな取組に活用
- ・ 集落農地が将来的に守られる



##### 【集落の取組】

- ・ 農地の利用など集落営農組織と個別経営の調整

#### ④ 集落外部に基幹作業を委託し集落農業を継続

担い手確保が困難な場合

○水田基幹作業を集落外部の担い手（農業サービス事業者等）に委託し、日常管理は集落で実施

##### 現状のイメージ

がんばって  
きたけど  
高齢化でもう  
限界じゃな



小規模農家

耕作放棄地



##### 目指す姿

私たち  
〇〇サービス  
にお任せ  
ください



日常の管理は  
集落の農家で  
やるよ



農業サービス事業者  
等へ作業委託

- ・作業効率化のため集落で調整
- ・集落内農家が肥培管理

特産物づくり

##### 【解消すべき課題】

- ・地域に担い手の見込みがない
- ・条件不利地は水田が小さいなど効率が悪く、外部の担い手も農地を借りてくれない

##### 【改善のポイント】

- ・隣接集落などと広域で作業委託ができる仕組みを作る
- ・条件不利水田は採算性に乏しく担い手が現れないため、作業委託で受託者の収益を確保し、日常管理等は委託集落が共同作業で行う体制を作る
- ・集落外に住む集落出身者が、草刈や水路、農道管理に応援に戻る体制を考える

##### 【期待される成果】

- ・集落でまとめて広域で作業委託することで、作業料金が低くなる
- ・維持管理作業は委託集落側が行うことで農地を守る
- ・基幹作業に要していた労力を特産物づくりなど他の生産活動等に活用
- ・作業の受け手は安定した収入を確保

##### 【集落の取組】

- ・作業委託の推進、取りまとめ
- ・草刈、水管理、水路や農道を維持管理する共同活動の体制構築
- ・特産物づくりなど集落活性化に向けた活動の推進

## (2) 活力ある農村に向けて

### ① 地域住民の共同活動

全ての集落に必要な取組

#### ○農業や共同活動を通じた地域住民の交流

##### 目指す姿

##### 農業を通じた地域住民の交流

- ・生き物観察会
- ・景観植物の植栽による景観形成活動
- ・農業体験、市民農園、朝市
- ・伝統文化・行事の伝承活動



農道沿いへの花の植栽

##### 地域住民の参加による共同活動

- ・地域住民参加による農業用水路、農道などの維持管理



水路の泥上げ

##### 【解消すべき課題】

- ・水路や農道を維持管理する共同作業や、集落行事への参加率の低下

##### 【改善のポイント】

- ・子供、女性、高齢者までの交流が深まる取組の実施
- ・世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の活用

##### 【期待される成果】

- ・地域農業の継続、発展
- ・世代を越えた交流の活発化
- ・相互扶助や協働の意識の高まり
- ・地域への愛着心の醸成

## ② 地域資源を活用した農村の活性化

## ステップアップする取組

○集落の地域資源を特産づくりや観光資源として活用し、地域がにぎわい、うるおう

### 目指す姿

#### 地域資源

人

若者、女性、  
高齢者など

農産物

伝統野菜、そば、  
山菜など

景観

棚田、名水  
など

文化

神社、仏閣、  
祭りなど

活用

- ・インフラ整備
- ・専門家の助言

#### 【取組のポイント】

- ・外部（大学、NPO、専門家等）との連携  
ワークショップ、地元学等
- ・地域資源の発掘と活用方法の検討
- ・若者、女性、高齢者などの人材活用
- ・担い手が特産物の栽培をけん引

#### 【期待される成果】

- ・農家等の所得向上、雇用の確保
- ・農村に埋もれていた魅力の再発見
- ・地域文化の伝承、誇りの醸成
- ・若者、女性、高齢者等の活躍の場
- ・地域コミュニティの充実

#### 特産物の生産

- ・直売所の開設
- ・加工品の生産・販売（6次産業化）
- ・農家レストラン

#### 都市農村交流

- ・農家民宿
- ・生き物観察会
- ・棚田ボランティア
- ・水田オーナー制 等



特産野菜の収穫で若者がお手伝い



オーナー水田